

令和元年度百合便り

## 校長だより 9月号

実力テストから開始した夏休み明け、生徒たちの関心事はやはり文化祭でした。2日間の準備を使い切り、廊下から見る各団体の飾りつけはとても華やかでした。100円ショップの発展で、様々な飾りつけができるようになったと思います。しかし、廊下に段ボールを広げ、ペンキで色をつけ、出来上がったものではなく、自分たちで作るのが、文化祭の醍醐味です。デザインを考え、材料をそろえ、作業工程を計画し、分担する。これらの作業はすべて0からのスタートです。何を掛けても0なのに、足していけば果てしなく広げることができるこの工程はまさに人生勉強そのもののような気がします。今年の来校者数は約2500人。台風が近づいていたにもかかわらず、多くの人に来ていただきました。そして大賞は3年6組つづつブアイスでした。

文化祭が終わると、世の中はラグビーワールドカップで盛り上がり始めました。とあるドラマで少しルールがわかったので私もテレビ観戦してみました。とにかく激しいスポーツで、見ているだけなのに押された感じがしたり、痛いと思ってしまうくらいでした。ふと、なぜラグビーボールはあの形なのかと調べてみたら、「豚の膀胱」を使ってボールを作ったのが始まりのようです。また、サッカーで手を使うことが許されている時代にボールを持ったままゴールしたことがその起源であることも分かりました。始まりは単純で、それを楽しみ、続けて、ここまでにしたことがまさにスポーツなのだと思います。スポーツはやはり、「楽しむ」ことが大切です。

さて、そのラグビーに「One for all, All for one」という言葉がありますが、意味は「一人はみんなのために、みんなは一つの目的のために」でその目的は「トライ」だそうです。「All for one」は「一人のため」と誤解されがちですが、「一つの目的」だったのです。これはどの組織においても同じです。一人一人がそれぞれではなく、同じ方向に向かっている。それが「チーム」です。

さあ、終業式を迎え、生徒もそれぞれのゴールに向かって仕切り直します。学校はそれぞれが集団の中にいることを意識して、自分を磨く場所でその目的は「集団の中の個としての自己確立」だと思います。そんな思いを込めて、終業式、私からのメッセージはアフリカのことわざです。

「早く行きたいなら、ひとりで行け、遠くまで行きたいなら、皆で行け」  
私たちは、長く、長く生きていかななくてはならないのですから、そんな思いが届いてくれるといいと思います。